

「地域、保護者、児童、教職員」の各アンケート結果をもとに、学校として、また「いきいき桑飼コミュニティ」として課題等を整理し、協議したことや回答等を掲載します。

1「いきいき桑飼コミュニティ」(家庭・地域連携)について

◎桑飼小学校は、平成23・24年度『京の未来創造校（家庭・地域連携）』の指定を受け、桑飼小学校の既存組織である「いきいき桑飼コミュニティ」を中心に活動を展開してきました。以下学校評価アンケートと関連付けて報告・回答します。

《評価アンケートの結果より》

- ・「いきいき桑飼コミュニティ」の取組の認知度は、保護者・地域とも9割以上である。
- ・「地域と積極的に連携し教育を進めている」と93%の地域の方の回答。
- ・「いきいき桑飼コミュニティの活動は、子ども達の豊かな体験や幅広い学習に役立っている」「活動を通して地域と学校とのつながりが強くなってきている」とともに96%の保護者の回答。
- ・「地域の特性を活かした学校、教育活動に取り組んでいる」と9割以上の保護者の回答。
- ・「地域の人に教えてもらったり、地域の施設で体験したりする勉強は楽しい」92%の児童の回答。

➔ 「いきいき桑飼コミュニティ」の過去5年間の取組や啓発の中で、一定活動が定着してきており、「いきいき桑飼コミュニティ」委員の皆さんの労を惜しまないご支援、地域と連携した多様な取組や人材活用、学校からの便り等での情報発信などの成果であると考えています。

今後、PTAや地域関係団体と連携して、双方向による安定的・持続的な協育のシステム（仕組みづくり）を整え、故郷に誇りと夢ふくらます桑飼ならではの特色を活かした教育を展開していきたいと考えていますのでご理解ご支援をお願いします。

—今年度の成果として—

- 学校行事、クラブ活動、総合的な学習の時間等での多くの支援を頂き、学習や取組が充実しました。
- 地域貢献活動として、地域のクリーン活動や校区グラウンド・ゴルフ大会への参加等行いました。
地域の多くの方からクリーン活動への参加は良い事だとの回答を得ました。また、来年度は地域の老人会等とも連携し『夏休みラジオ体操』を行ってはどうかという提案に多くの賛同を頂きました。
- 「花いっぱい運動」をPTAの協力のもと、地域にも広げることが出来ました。(昨年度の声を受けて)
- 防犯訓練が地域関係者や保育園と連携して実施できた。安心・安全の取組を見直す良い機会になった。→来年度は「こども110番に家」への逃げ込み訓練も実施したいと思います。

—課題として—

- 学校の最も身近なパートナーであるPTA〔家庭〕との連携の強化を図り、保護者がより主体的に取組に参画し、力を発揮して頂けるよう考えています。
 - ・例えば：行事や学習など積極的に支援活動に参加して頂く。(読み聞かせボランティア等)
- 「いきいき桑飼コミュニティ」をはじめとする地域関係者（団体）との一層の連携と協育の推進。学校づくりは地域づくりの視点から双方向の活動支援や学び合いを大切にした取組、特に地域に根付き貢献する活動を推進していきたいと考えています。

《保護者の意見として》

- 保護者の意見が通らない。学校側からの一方通行を感じる。決定事項の報告ばかりで検討段階の連絡がない。共に作るという姿勢に欠けている。もう少し情報提供してほしい。
- 地域と連携できているが、頼るところが一定のところばかり。更なる広がりを目指す。

→ 保護者の意見を吸い上げ、受け止めて教育活動を進めていくことを心がけていきます。また、学校からの一方通行にならないよう丁寧に保護者に提起したり説明等したりし、双方向のコミュニケーションを大切にしていきたいと思います。お気づきの点等ありましたらご遠慮なく学校やPTAに出してください。地域連携の仕方については、更にオープンにして様々な視野で様々な分野の方と連携し活動が広がっていけるよう工夫していきます。

2 地域の子どもは地域で育てる

地域・保護者ともに「交通ルールや社会のルールを守らず、よくないことをしていたら注意する」という人が約8割と、昨年より少し増えました。また、保護者・地域の方で「地域の子どもに挨拶や声かけをしている」という人は、それぞれ9割と、昨年と比較して高くなりました。地域の子ども達を自分の子どもと同じように見守って下さる方が増えていることをありがたく思います。

学校では、地域の方や警察・スクールガードリーダー・保健師の方たちにお世話になり、毎年自転車教室を実施したり、高学年を対象に非行防止教室・喫煙防止教室などを実施したりしています。けれども、地域で自転車に乗る時のルールがまだ守れない児童や、つい危険な遊びをしてしまう児童もあり、「交通のマナーが悪い」「注意をしてもなかなかきかない」という意見をいただきました。特に、自転車の乗り方や、下校の仕方については、地域の方にたびたび注意していただいています。そこで、下校時に教員が定期的に見回りや立ち番をし、声かけをしています。地域の方にも、毎日立ち番をお世話になっています。少しずつ改善はしておりますが、まだ努力が必要な段階です。

今後も、地域の中で危険な場面を見かけられたら、タイムリーに注意や声かけをしていただき、学校と保護者・地域が連携して子ども達を育てていきたいと思っています。

3 あいさつについて

保護者の方で「家庭で子どもと基本的なあいさつをかわしている」「地域の子どもたちに声かけやあいさつをしている」と答えた方、地域の方で「登下校時に子どもを見かけたら言葉かけやあいさつをしている」と答えた方ともに、昨年度より増えました。子どもたちへのアンケートからも95%の子どもが「あいさつをしている」と答えています。

「元気にあいさつができる子が増えました。」「子どもからあいさつしてくれるようになりました。」などの言葉もいただきました。学校では、教師が声かけをするだけでなく、児童会でも「あいさつ運動」に取り組んでいます。PTAでも年3回「あいさつ運動」に取り組んでいます。（3学期は2月に予定）「あいさつは家庭から」と言いますが、保護者・地域と学校が一緒になって声かけができたことで、子どもたちのあいさつが良くなってきたのだと思います。ご協力ありがとうございました。

けれども、一方では「あいさつをする子としない子が決まっている」「登校時はできるが、下校時にはできない」などの意見もいただきました。これを受けて学校では登校班会を持ち、下校時のあいさつの仕方「ただいま」「さようなら」などについて指導をし、元気にあいさつ

する練習をしました。さらに改善していくよう、今後とも地域で子どもたちを見かけられたら、声かけをよろしくお願いいたします。

4 教職員の対応等について

「地域の方、来校者への対応」については、昨年より10%近く改善し、95%の方に評価していただきました。「電話や職員の対応」「子どもに関する相談など親身に対応」「子どもを適切に評価・指導している」「先生はいろいろな相談にのってくれる」などについても、おおむね昨年度より改善しています。けれども、約15%の保護者、10%の児童についてはまだ対応が不十分であるととらえ、今後もさらに丁寧な対応を心がけていきたいと考えています。

5 道徳心の向上(規範意識)について

児童の規範意識については、「きまりを守ろうと努力している」(88%)「後片付けをきちんとしている」(90%)「当番や係の仕事は真面目にしている」(94%)という結果で、昨年よりも良くなりました。学校では「4つのあ(あいさつ・あいず・あとかたづけ・あんぜん)」と合い言葉を決め、あいさつの他にも、生徒指導部や児童会を中心に、期間を決めて、5分前行動をすること、トイレのスリッパをきちんとそろえること、廊下を歩くなどを目標にして取り組んでいます。その結果、児童の意識も少しずつ高まってきました。けれども、「そう思わない」と答えている児童もいるので、道徳の時間を中心に正しい価値判断で行動・実践出来るよう今後とも指導を継続し、当たり前なのが当たり前になれるような子どもに育てていきたいと思います。

6 学力の向上について

(1) 実態

落ち着いた学習環境の中で、どの学年もまじめに学習できています。府の診断テストや全国学力テスト、CRT 結果はどの学年も平均を上回っています。しかし、個別に見ると学習の定着度合いや活用する力に残念ながら課題がある児童がいます。また、児童アンケートから見ると「授業中、自分の考えを発表することが多い」は4割が否定的に答えています。このことから、積極性や自主性、ことばの力が弱いのではないかと考え次のような取組を進めています。

(2) 取組

ア 意欲を育てる

子どもたちが本来持っている力を十分に発揮するために、意欲を育てなければいけないのではないかと考え、職員は意欲を持たせ、持続させる方策を研究の重点にしてきました。

授業に入る(導入)段階では視覚に訴えるものや操作活動を取り入れたり、学習のねらいや学習の見通しをもたせたりして、進めています。また、ノートやワークシートの書き方を指導し、今日の学習の振り返りやまとめが分かりやすいように指導しています。子どもたちの興味をひく教材や固定観念を崩す問いかけなど教材研究をしっかりとて、1時間1時間ていねいに授業をしています。

保護者の方から「苦手なことにも立ち向かい、思い通りにならないときや悲しいことがあったときに、壁をのりこえられる人になってほしい。」という声がありました。学校でもすぐにあきらめたり、やらずに済まそうとしたりする姿が見られて気になっています。学習は子どもにとっては楽しいことばかりではありません。「しなくてはならないことを逃げずにやる」という気概が大切です。その強さ

を育てるために、教師は子どもの内面を洞察する力を高め、指導に当たっていきたいと思います。

イ 個に応じた指導

本校には特別支援加配の先生が配置されています。その先生と教務が教室に入り算数を中心にして学習を進めています。複数体制で指導したり、習熟別に編成して少人数指導をしたりしています。また、学習内容によっては校長、教頭も授業に入り、複数体制できめ細かく指導しています。児童アンケートで「先生の教え方はわかりやすい」97%が肯定していますが「勉強はよくわかる」は81%と開きがあります。また、保護者アンケートでは「子どもは、授業が分かりやすいといっている」は81%で親子でも差があります。「分かる」から「できる」と子どもたちが感じ自信が持てるようにまだまだ授業改善をしていく必要があると考えています。

ウ 活用する力やことばの力を高める

基礎・基本の力は概ね付いていても活用する問題や、考えや感想、理由や根拠を発表したり、書いたりすることに弱さがあります。その力を付けるために各学年の発達段階に応じた取組をしています。国語科を中心にして書くことを各教科で取り入れています。算数では考え方を図や絵もつかい式を導いたり、理科では実験をする前に経験や想像から予想を立てたり、結果は理科用語を使って、番号を付けた適切な接続語を使って書くなどの指導をしています。また、朝学習では読書はもちろんのこと、高学年は新聞記事を読んで内容をまとめたり感想を書いたりすることもしています。さらに、日常的に発表のときや教師との会話の中で適切な話形を指導しています。

しかし、まだまだ課題はありこれからも継続して指導していく必要があります。

エ 家庭と連携

保護者アンケートに「勉強や宿題をがんばっている」という声がありました。なんとすてきなことでしょう。子どものがんばりを家庭がしっかりとみつめ、認めておられることが大変うれしいです。学力充実のためには、家庭での支えが大変重要です。生活習慣（早寝・早起き・朝ご飯）を整えることは健康面だけでなく心の強さにもつながります。集中力や継続する力を支えます。そのようなことを今年は10月中旬に全学年同じテーマで懇談会を開いて訴えました。若いお母さん方には生活習慣と学力との関係について学習できたことを喜んでいただきました。

さらに、懇談会や通信等で与謝野町内の小学校に全員配布された「与謝野町版 学びのきほん」や桑飼小の「家庭学習の手引き」を紹介し、家庭における学習習慣の育成に協力をお願いしました。

保護者アンケートで「学校では、学力を高めるための指導や取組が進められている」は9割近い方から評価をいただいています。学校は学習（教科・教科外）や人のつきあい方（協調性・社会性）を学ぶところ、家庭は生活習慣や礼儀、マナーを身に付けるところなどと役割を明確にして、自立・自律した人間をこれからも家庭と連携を図りながら、共に育てていきたいと思います。